

# 小樽ロータリー

## クラブ会報

8

No.4019

創立1933.12.12

例会場：グランドパーク小樽  
 例会日：毎週火曜日12時30分  
 事務所：小樽市築港11番3号  
<http://www.otaru-rotary.net/>  
 発行日：2016年8月30日

2016-17年度 国際ロータリーテーマ



人類に  
奉仕する  
ロータリー

2016~2017年度 RI会長 ジョン F. ジャーム (John Germ)



## 今日のプログラム

## 「納涼夜間例会」

### 第5例会記録 2016年8月23日

- ロータリーソング 「奉仕の理想」
- ゲスト紹介  
三ツ江環境意匠研究所 主宰 三ツ江匡弘様
- ビジター紹介  
札幌南ライラックロータリー衛星クラブ 川端さなえ様
- メーキャップ受付  
山田 正様 (小樽南RC)

### ■会長報告 (泉会長)

- ・8月24日(水)地区青少年交換プログラムによる今年度交換学生エミリアさんがフィンランドから来道されます。佐藤慶一青少年奉仕委員長(カウンセラー)、坂田道昭会員夫人(ホストファミリー)と一緒に迎えに行きます。いずれ皆様にご紹介する予定です。日本語で大丈夫なようですので、是非お声がけをお願いいたします。
- ・10月1日(土)、2日(日)札幌パークホテルでRI2510地区大会が開催されます。前回の徳中副実行委員長のPRによると、講演や料理に今までの大会を超えた工夫があるとのことですので、皆様のさらなる登録参加をお願いいたします。

### ■幹事報告 (上参郷幹事)

- ・来週30日(火)の納涼夜間例会の点鐘は17時45分です。また葉書にて送付済みの9月6日(火)は宏楽園で移動例会です。
- ・地区大会は交換学生も合わせて現在32名です。欠席で出された方は最終締め切りが再来週ですので今一度ご検討ください。
- ・例会変更  
◇倶知安RC 9月17日(水) 点鐘17時30分  
「グリーンパーク岩内」(後志4クラブ合同例会)  
9月21日(水):振替休日

### ■委員会報告 (佐藤青少年奉仕委員長)

- ・毎年恒例の地区震災支援事業「わくわく森の親子キャンプ」がさる8月7日(日)~9日(火)に岩見沢で開催されました、当クラブからは最終日に6名が参加し、BBQ用の海の幸を提供してまいりました。今回の食材提供に当たっては、伊藤会員に多大なるご協力をいただき、今時期大変高価なホタテ80枚、エビ90本、ホッケ開き等をご用意いただき、参加した20名の親子に大変喜ばれました。



- ・ロータリー青少年交換プログラムによるフィンランドからの学生、エミリアさんがいよいよ明日、来日されます。できれば、来週の夜間例会の場で皆さんにご紹介したいと考えていますので、皆様の温かい歓迎を宜しくお願いします。

## 前回のプログラム 社会奉仕委員会担当 移動例会 「小樽市公会堂」

- テーマ：  
小樽山の手まちづくり再考
- 講師：三ツ江環境意匠研究所  
主宰 三ツ江匡弘様

【講師プロフィール】  
 旧岡崎家能舞台を生かす会・会長、三ツ江環境意匠研究所主宰。1965年小樽市生まれ/北海道大学大学院修士課程修了後、東京大学大学院研究生を経て、北海道内外の建築デザイン、都市デザインの仕事に携わる。その傍ら、1997年より旧岡崎家能舞台の再建に取り組み、数々の能楽イベントを企画運営。自らも能楽の世界へと歩みを進め、シテ方宝生流教授囑託となる。また2010年以降、文化庁派遣講師として、小樽市内及び近郊の小・中学校で能楽体験授業を行っている。



1. まちの活性化・まちづくりの再構築を目指して  
～都市的課題解決の、ひとつの考え方～  
 基本的には小樽の活性化に向けて考えています。これまでの小樽観光では運河周辺ばかりに集中していますが、回遊することにより滞在時間を長くすることを想定しています。そ



ここで小樽公園周辺を山の手、運河周辺を海の辺と位置づけて概略を述べます。海の辺から観光客が途中の商店街を経て山の手に来ます。すると商店街が導線になりますので商店街活性化の可能性、また導線沿いの居住環境改善の可能性も出てきます。

## 2. 小樽の都市構造

### ～海の辺（うみのべ）と山の手～

小樽のまちを海の辺と山の手に分けましたが、境界線は国道5号で、海側が海の辺、山側が山の手です。

それぞれ特徴を抽出できますが、歴史的建造物の視点で見えます。海の辺の歴史的建造物は倉庫（小樽倉庫、大家倉庫など）を核とした港湾施設（運河、埠頭など）、いわゆる港湾商業。ここでは大きなお金のやりとりが発生するので、次には銀行街（日本銀行、北海道銀行）や事務所（松田ビル）など働く区域があり、次に手宮線を跨いで、買い物をする商店街（呉服店などの蔵）やアフターファイブの飲食店街が広がっています。これが海の辺の概略的な構造です。

一方山の手は豪商の住宅のほか、お寺、神社、教会などの宗教施設、そして小樽公園も歴史的遺産です。こんな逸話があります。明治20年代に開拓使長官黒田清隆から小樽の代表者たちに「公園をつくりなさい。についてはその場所を考えてください」とのお達しがありました。まだ海側にしか集落がない時代ですので、小樽の代表者たちは海側を提案しました。すると黒田は「小樽はこれからもっと人口が増えるので小樽の中心に当たる場所がいい。先進国の事例ではまちの中心となる公園周辺には、公共施設が配置されているので、そういうことも勘案するように」と指示しました。

さて現在の小樽公園周辺をあらためて見てください。公会堂、市民会館、体育館、裁判所、市役所、図書館、小中学校があります。これらは黒田の示唆が今日につながっていることを示しています。

山の手は基本的に住宅エリアですが山の手を中心になる公園周辺には様々な公共施設があります。

## 3. 山の手エリアの特徴

海の辺の歴史的建造物は建物ですべてでグレーです。それに対して山の手は大きな敷地の中で樹木に囲まれて木造の建物がありグリーンです。このような特徴の形成には、海の辺で働いて利益を得て、山の手に豪邸を建てたという物語性がちゃんとあります。無関係ではないのです。さらにその利益は社会貢献や趣味に投じられてきました。社会貢献の証が公会堂です。明治時代に皇太子殿下（のちの大正天皇）が来樽するときに海運商であった藤山要吉が私財を投じて宿泊所とされました。また趣味が高じてつくられたのが岡崎家の能楽堂でした。ですから海の辺で働く歴史と、山の手で夢を投じた歴史の両面が、小樽の歴史を知るときに柱になると思います。したがって山の手への集客のソフトが今後重要になってきます。

## 4. 特徴を生かした「まちづくり」

### ～地域産業を基軸とした、地域の文化的隆興と観光振興～

さて夢を投じた歴史を今度は我々現代人が活用していますので、物語は継続していることを示します。そこで具体的にどのような観光ソフトを考えるかです。まずは能舞台がありますので、能舞台を使った体験観光です。すでに6年前から「能楽体験ゼミナール」と称して団体向けの講座を開いております。去年、今年は札幌や帯広から100人単位で体験されていきました。また小樽職人の会の制作体験があり、普段は小樽マリーナの施設を借りて教室を開講しています。ところが講師となる職人さんたちの住まいが山の手辺りに多いのです。私もその一人です。それを知ると、いっそう公会堂がその施設として相応しい。

ちなみにここ公会堂の和室には一の間、二の間、三の間があります。一の間が一番立派です。床の間と違い棚、そして天井は折り上げ格天井です。さらには1911年築にしては天井が高く、窓硝子は波打っているのがわかります。1906年築の旧日本郵船と同じ窓です。襖の取っ手、玄関唐破風は菊の御紋です。つまり日本伝統技術や文化を日本の伝統建築の中で伝習する筋書きができます。さらに公園周辺には歴史的建造物が集積しています。旧小樽区公会堂、旧岡崎家能舞台、坂牛邸、旧遠藤又兵衛邸、旧塩田邸、小樽市庁舎などを見て回ることもできます。中でも小樽市庁舎の議事堂は見る価値があります。また現在裁判員制度が普及されつつありますが、教育旅行で訪れる子供たちにその講座を開くこともおもしろい。これはすでに実行している地域もあります。たとえば午前中に公会堂で職人制作体験、能舞台で能楽体験、昼食は市民会館で弁当を買って公園で食べ、午後は公園周辺の歴史的建造物巡り、巡りの閉めは議事堂で、そして裁判所で裁判員制度の講座を聴く。すると一日がかりですので当然宿泊率も高まり、観光滞在時間の延長になります。

## 5. 都市課題解決と今後の発展

### ～回遊性確保・地域全体の活性化・社会教育施設整備・居住環境向上～

こうなれば回遊性が高まり、ルートの選択肢も増えます。そのためには公会堂を社会教育の施設として再整備します。小樽にはレピオのような社会教育施設の類似施設はありますが専用施設がありません。現在小樽商工会議所青年部の皆さんが「歩こう見よう小樽ふる里への道（仮）」を実践すべく学んで準備されているようです。

運河から小樽公園までのルートが開けると、小樽公園から天狗山までは近くなりますので、小樽の東西ルートが整備されていきます。さらに南北ルートでは札幌、朝里から小樽公園、そして祝津や余市にかけて見たり体験できる場所が整備されていきます。こういう視点で小樽観光を再構築すれば、小樽観光はまだ捨てたものではありません。



## 出欠調べ

（8月23日分）

1. 本日の欠席者（12名）  
海老名敏男、澤田 忠宏、寫村 公宏、高橋 英明、武井 豊、土屋 大乘、花和 嘉貴、浜田 健嗣、星野 昭雄、堀岡 秀之、松本 京子、宮本 孝雄
2. 本日の出席者（会員77名中62名）  
（出席規定除外者9名中6名出席）
3. 前々回（8月2日）の確定出席率（会員数77人）  
（義務出席会員76名 出席67名 88.16%）
4. 前々回のメーキャップ  
西村 仁、平松 正人（以上樽南）

■次回のプログラム 職業奉仕委員会担当 移動例会「おたる宏楽園」

■本日の記事担当（石井 伸和）